



ベトナムに派遣されて、もうすぐ2年がとうとうしているが、着任した日がつい昨日のように思える。新型コロナウイルス禍の影響で一時中断されていたJICA海外協力隊事業だった

JICA
だより



ベトナム①
(2021年から派遣)
神田恵理さん(35)
ウオンビ市在住
(岡山県勝央町出身)

が、派遣再開直後の2021年度1次隊としてこの国に来ることができた。
同年11月から首都ハノイ

感謝の祝祭日たくさん

の東約150キロのクアンニン省ウオンビという都市にあるハロン大に日本語教師として派遣されている。第2キャンパスがある近くのハロン市には世界遺産で有名なハロン湾があり、多くの観光客が訪れる場所とな

っている。ハロン大日本語学科は16年に開設された比較的新しい学科。現在188人の学生が在籍しており、私は1〜3年生の授業を担当してきた。
日本とベトナムの違いに祝祭日がある。ベトナムに



「女性の日」だが、男子だけでなく女子学生も花束をプレゼントしてくれた。左から2人が筆者

は「女性の日」きな慣習だと思った。

「教師の日」ベトナムの学生は親切でなど祝ったり礼儀正しく、困っていたら感謝したりすいつも助けてくれる。何かする日が多いよううだ。女性の頼み事をしても、喜んで引き受けてくれる。食事やお日には男性が茶に誘ってくれることもある。
好きな女性や

母親、姉に花束を、教師の日には学生が教師に花束や果物を贈る。昨年の教師の日には学生たちが果物などをくれ、女性の日には女子学生も一緒に歌って日本のアニメソングを歌ってくれた。日本にも「母の日」や「敬老の日」はあるが、女性や教師に感謝する日はないので驚くとともに、すて

この国に派遣される前は、海外協力隊員として自分がかをしなければ、との思いが強かったが、実際は助けられることの方が多かった。教師として何かをしてあげる、という考えではなく、お互いの文化を知り、理解を深め合うことの大切さを改めて感じている。